

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22018

建築物名称	(仮称)川崎VI新築工事
建築主	興和地所株式会社 代表取締役 来海 忠男
建築物の所在地	川崎市川崎区堀之内町9番8、9番9、9番25
設計者氏名、建築士事務所名	朝倉 崇夫 株式会社朝倉崇夫都市建築設計事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,107.40㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上11階
工事完了予定年月	令和6年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		22018
建物名称	(仮称)川崎VI新築工事	階数	地上11F、地下0F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市川崎区堀之内町9番8、9番9、9番25	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	70人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年7月8日	
敷地面積	459㎡	作成者	高橋邦仁	
建築面積	242㎡	確認日	2022年7月8日	
延床面積	2,107㎡	確認者	朝倉崇夫	

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G vs 環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 93%  
 ③上記+②以外の 93%  
 ④上記+ 93%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
 Q1 室内環境: 3  
 Q3 室外環境(敷地内): 2  
 LR1 エネルギー: 1  
 LR2 資源・材料: 1  
 LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

#### LR2 資源・材料

LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>1.7</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.2/4.3	1.4
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.5</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		1.6/2.3	3.5
3.2 3.2.1 昼光制御	カーテンと庇を組み合わせてグレアを制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		2.8/5.0	2.8
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.5/4.7	2.6
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ノンフロンの断熱材を採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級2相当	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/4.0	2.5
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	付置義務を満たす駐輪場を確保	0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		2.8/5.0	2.8
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級2相当	0.1/0.1	4.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		2.8/5.0	2.8
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	G	W	R	H							
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>											<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>											<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル											0.50
1.2 遮音											0.50
1 開口部遮音性能											0.30
2 界壁遮音性能											0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											0.20
1.3 吸音											-
<b>2 温熱環境</b>											<b>2.9</b>
2.1 室温制御											0.50
1 室温											0.63
2 外皮性能											0.38
3 ゾーン別制御性											-
2.2 湿度制御											0.20
2.3 空調方式											0.30
<b>3 光・視環境</b>											<b>2.9</b>
3.1 昼光利用											0.30
1 昼光率											0.50
2 方位別開口											0.30
3 昼光利用設備											0.20
3.2 グレア対策											0.30
1 昼光制御											1.00
3.3 照度											0.15
3.4 照明制御											0.25
<b>4 空気質環境</b>											<b>4.1</b>
4.1 発生源対策											0.63
1 化学汚染物質											1.00
4.2 換気											0.38
1 換気量											0.33
2 自然換気性能											0.33
3 取り入れ外気への配慮											0.33
4.3 運用管理											-
1 CO <sub>2</sub> の監視											-
2 喫煙の制御											-

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.8
<b>1 機能性</b>					<b>3.2</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					<b>3.0</b>	0.57	<b>3.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性					-		-	
2	高度情報通信設備対応					-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>					-	-	<b>2.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観					-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース					-		-	
3	内装計画					-	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>					<b>3.5</b>	0.43		-	
1	維持管理に配慮した設計					4.0	0.50		
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					<b>3.3</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	R				4.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R				2.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R				4.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R				3.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R				5.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	R				2.0	0.20		
<b>2.4 信頼性</b>					<b>2.8</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備					1.0	0.20		
3	電気設備					3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法					4.0	0.20		
5	通信・情報設備					3.0	0.20		
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>3.2</b>	0.30	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>						-	<b>2.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり					-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ					-	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>						-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>					<b>3.2</b>	1.00		-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20		
2	給排水管の更新性					3.0	0.20		
3	電気配線の更新性					3.0	0.10		
4	通信配線の更新性					5.0	0.10		
5	設備機器の更新性					3.0	0.20		
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					—	0.30	-	-	<b>1.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W				<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					<b>1.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									<b>2.0</b>
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W				<b>3.0</b>

LR 建築物の環境負荷低減性										2.8
LR1 エネルギー										2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H				3.0
2 自然エネルギー利用				W		H				2.0
3 設備システムの高効率化				W		H	[BE][BEIm] = 1.02			2.8
4 効率的運用										3.0
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング				W		H				
4.2 運用管理体制				W		H				
集合住宅の評価										3.0
4.1 モニタリング				W		H				3.0
4.2 運用管理体制				W		H				3.0
LR2 資源・マテリアル										2.6
1 水資源保護				W		R				2.2
1.1 節水										1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										3.0
1 雨水利用システム導入の有無										3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減										2.6
2.1 材料使用量の削減				W		R				2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	-			3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	-			1.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R				2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	躯体と仕上げ材の分別が容易な計画			4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避										3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用										3.0
3.2 フロン・ハロンの回避										3.5
1 消火剤				W						-
2 発泡剤(断熱材等)				W			ODP=0.01未満、GWP値=50未満の断熱材を採用			4.0
3 冷媒				W						3.0
LR3 数地外環境										2.9
1 地球温暖化への配慮				W			CO2排出率:93%			3.2
2 地域環境への配慮										2.5
2.1 大気汚染防止										3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H				2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制										3.0
1 雨水排水負荷低減						R				3.0
2 汚水処理負荷抑制						R				3.0
3 交通負荷抑制						R				3.0
4 廃棄物処理負荷抑制						R				3.0
3 周辺環境への配慮										3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0
1 騒音										3.0
2 振動										-
3 悪臭										-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										3.0
1 風害の抑制										3.0
2 砂塵の抑制										-
3 日照障害の抑制										3.0
3.3 光害の抑制										3.7
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							1):「光害対策ガイドライン」チェックシートの一部を満足している。 2): 広告物照明の設置はない。			4.0
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策										3.0